

水工イメージアップ班

岩佐 成樹 植田 彩花
辻 俊輔 兵江 魁斗
村上 龍来 毛利 紗菜

1.まえがき

私達は今回の課題研究で水工のイメージアップを目指し、資料を作成しモニターに映すことにした。

デジタルサイネージで水工のイメージアップを図ろうとしたきっかけは、先生の提案を受けて水工の印象を良くする資料を作りたいと思ったからである。

研究に使ったノートパソコンは株式会社アステア様から頂いたものを、モニターは株式会社共和工業所様から頂いたものを使用した。(写真1, 写真2)

ノートパソコンとモニターを貰った経緯は、株式会社共和工業所様の **SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)** 私募債「地域応援型」事業の一環で、寄贈いただいた。(写真3)

SDGs 募債「地域応援型」とは **SDGs** に関連した地域社会への貢献を目的として、私募債発行企業からいただく手数料の一部で備品などを購入し、私募債発行企業が指定する **SDGs** に関連する先へ当行と発行企業連名にて寄贈する私募債のことである。



写真1 パソコン



写真2 モニター



写真3 デジタルサイネージ贈呈式

2.原理

デジタルサイネージとは屋外・店頭・公共空間交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するメディアを総称するものである。

Power point と excel を使って作った資料をノートパソコンに保存し、その資料をモニターに映した。(写真4)



写真4 モニター接続の様子

3.研究内容

最初に資格や部活動などの水工の詳細な情報をまとめた資料を作った。画像は全て水工 HP にあるものを使用した。水工に初めて来る人にも分かりやすいように地図などの資料も作った。

(1) 資料の作成

資料は Power point で作成した。

資料は学校内での活動の写真や学校の地図(写真5)を使用して、モニターに映す資料を作成した。

各科の写真は先生に用意して貰った。

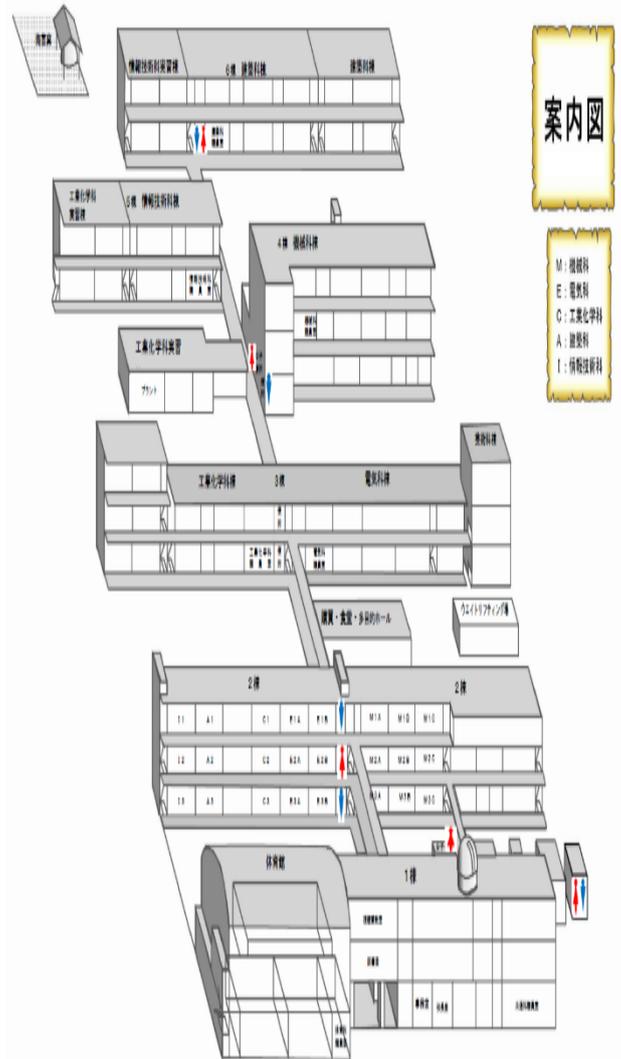


写真5 学校の案内図

(2) Excel の自動化

Excel に年間の行事予定を入力し、月ごとにその月にある行事を自動的にモニターに表示するプログラムを作った。プログラムは Excel マ

クロを使って自動化した。(写真6)

A	B	C
日付	日付	主な行事
10月1日	(木)	始業式 入学式 合宿HR
10月2日	(金)	PTA総会 球技大会 生徒総会
10月3日	(土)	校外学習 県総体
10月4日	(日)	オープンスクール 終業式 壮行式 リーダー研修会
10月5日	(月)	保護者会 インターンシップ
10月6日	(火)	始業式
10月7日	(水)	体育大会 オープンスクール
10月8日	(木)	設立記念日 文化祭
10月9日	(金)	終業式
10月10日	(土)	始業式
10月11日	(日)	入学試験(特別) 創作展
10月12日	(月)	卒業式 修学旅行 入学試験(一般) 終業式
学期	月	主な行事
1	4月	始業式 入学式 合宿HR
	5月	PTA総会 球技大会 生徒総会
	6月	校外学習 県総体
	7月	オープンスクール 終業式 壮行式 リーダー研修会
	8月	保護者会 インターンシップ
2	9月	始業式
	10月	体育大会 オープンスクール
	11月	設立記念日 文化祭
	12月	終業式
3	1月	始業式
	2月	入学試験(特別) 創作展
	3月	卒業式 修学旅行 入学試験(一般) 終業式
場所	時間	会議・研修など
		本日
2階会議室	16時	〇〇連絡会議

写真6 Excel の実際の画面

(3) モニターとパソコンの接続

モニターとパソコンはワイヤレスディスプレイアダプターを使い、無線通信で繋いだ。パソコンの画面をモニターに映す際には UWSC というソフトを使った。

4.まとめ

今回初めてのデジタルサイネージだったが、それなりに良いものが作れたと思う。

モニターに映す資料はそれぞれ項目を分けて作っていったため、効率よく資料を作ること

計画通りに作業を進めることが出来、Word や PowerPoint を作る時間を多く確保することが出来たためゆとりを持って作業することが出来た。

5.あとがき

私は初めてデジタルサイネージに映す資料を作ったが、見る人に分かりやすく資料を作るのは想像以上に難しかった。

最初は何をすればいいか分からず、作業の進みが遅かったが、後半はみんな協力して作業を進める事ができて良かった。

このデジタルサイネージは一人では絶対完成出来なかったと思うから、人と力を合わせて何かをすることはとても大切だと思った。

(岩佐)

まず、予定を組んで、ゆっくりやっていった。すぐ終わるかなと思って、ゆっくりやっていったけど、最後発表のための原稿づくりに時間がかかっているのも間に合うか少し不安なところがあった。

最初は、ワードで学校紹介の内容を作った。学校の来てくれた人にとって何の情報が必要か、何が学校の PR になるか考え、見やすいものを作った。デジタルサイネージを作るのは初めての経験で、いい経験になった。

(植田)

デジタルサイネージがどういう物なのかも分からないままのスタートだったが皆で案を出し合いながら進めていった。途中からはそれぞれで役割を分担して複数の作業を同時進行していったので作業を円滑に進めることが出来たと思う。

案がなかなか思いつかない時や、思いついたとしても実現させるのが難しく思いのほか時間がかかってしまっていたので、自分たちが再現出来るかどうかを早めの段階で取捨選択していれば期限ギリギリにならずに済んだと思う。

(辻)

最初はデジタルサイネージの原稿を作成するのは簡単だと思っていたけど、やっていくうちに、Excel との連携などの自分が知らない機能などを使わないといけないことが増えてきて大変だったけど、新たな知識をいっぱい得ることができたのでよかった。

(兵江)

イメージアップ班でデジタルサイネージを作成してみて、駅にあるデジタルサイネージがどのように作成されているかを今回の課題研究で知ることができた。最初は、何をしたらいいのか分からず不安だったけど班の皆と協力し、デジタルサイネージを完成させることができた。この課題研究から改めて協力の大切さを知った。

(村上)

デジタルサイネージを作成するにあたり、だれが見るのか、その人の求める情報とは何かを考えることの重要性を感じた。デジタルサイネージの情報は PowerPoint を使いイ作成していたため、使い慣れていて作りやすかったように思う。だが、使い慣れている分余計に見る人は読みやすいのか、求めている情報なのか、ほかに何か工夫することはないのか考えていたため、時間がかかっていたが班員とうまく協力して作業することができていた。

私は、情報を作る他に取扱説明書の作成をしていたが、読み手が読みやすいもの作るのに苦労した。様々な苦労はあったが無事に完成したためよかった。

(毛利)